

教育目標	
幼児期にふさわしい生活を通して、豊かな心やたくましく生きる力の基礎を培う	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月15日	学校運営協議会みつばの森
最終評価		

（１）幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実

<p>具体的な取組</p> <p>○幼児が心と体を動かし、意欲的に遊ぶことができるよう教師がモデルとなり共に遊び、幼児理解を深め、援助を行い、遊びに必要な環境を再構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に夢中になって遊べる安心安全な環境づくり ・子どもと一緒に遊ぶ中で、必要な援助と環境の再構成を行う <p>○幼児の姿を振り返り、一人一人の興味・関心や発達に応じた保育・援助・環境を見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な週案の作成と日々の保育の振り返り（PDCA サイクルの確立） <p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びの姿の変容をとらえる・週案と年間指導計画の振り返り・事例検討 <p>①アンケート（項目）・子どもは自ら遊びを見つけて遊ぶことを楽しんでいる。②園は自ら心を動かし、生き生きと活動できるような環境を整えている。③子どもは幼稚園で豊かな経験ができ、様々な気づきや発見をしている。</p>

中間評価

各種指標結果	
○年間指導計画に基づき、週案を計画・実行し振り返り、環境の再構成に努めた。また、教師も共に遊ぶ中で、より幼児理解ができ、遊びの変容をとらえられた。	
○アンケート（A:とてもそう思う B:そう思う C:どちらかというと思う D:そう思わない）	
①②③ともAB評価が9割を占めた。とくに②③ではAが90%以上の高評価であった。	
自己評価	分析（成果と課題）
	教師が共に遊ぶことでより幼児の姿がとらえられ、また、環境構成を考えることでより安全で楽しい活動が展開でき、幼児の意欲が高まり、主体的な活動につながった。事例検討を通して保育に必要な援助や環境構成について深められた。アンケート結果もAB評価が概ね9割を超え、取組が評価されている。しかし、環境構成の準備や再構成が遅れることもあり、長期的展望に立った計画が今後の課題だ。
	分析を踏まえた取組の改善
	年間指導計画をさらに意識した週案を作成し、PCDAサイクルを活性化させる。 幼児理解をさらに深める事例検討の充実 遊びがより広がり、豊かになるような異年齢の交流
学校関係者評価	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	・事例検討や幼児理解とともに、年間指導計画をより意識した週案の作成と振り返り。
	学校関係者による意見・支援策
	・園の取組（日々の遊びの広がりや充実）が幼児の育ちにつながっていることが運動会での子ども姿に表れていた。 ・心と体を動かす取り組みに呼応して夕涼み会で学生サークルによる「よさこいソーラン」や「よっちょれ」を紹介。幼児も共に踊り、みんなで楽しむ場となった。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）
	分析を踏まえた取組の改善
	重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（２）小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

具体的な取組
○ねらいを意識した年間交流計画の作成
○近隣の小学校等への保育公開・授業参観・合同研修の実施
○えほん室と「親子で絵本！」の活用

<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の計画と実施後の事例検討 ・保育公開や研修の回数と「幼児期に育みたい資質・能力」と学びに向かう力の育ちの検討。 ・えほん室のクラスでの利用と親子での利用実績　・「親子で絵本！」の活用具合 <p>○アンケート（項目）④家庭では月刊絵本や園からの貸出絵本を楽しんでいる。⑤えほん室を親子で利用し絵本にふれたり絵本を借りたりしている。⑥保幼小中連携の取組は子どもの心の育ちにつながっている。</p>	
--	--

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流でのねらいを意識した年間計画を作成。事前事後の打ち合わせによる意見交流。 ・小学校授業参観への参加　烏丸上京プロジェクト（KKP）による夏季合同研修会への参加　園外への保育公開はまだできていない。 ・週１回絵本貸出日の取組継続　「親子で絵本！」100冊超えが各学年複数あり。 <p>○アンケート（A:とてもそう思う　B:そう思う　C:どちらかというと思う　D:そう思わない） ④A51%B36%⑤A74%B23%⑥A69%B26%　AB評価が9割前後</p>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを意識することで小学校との交流の意義を互いに考えられ、幼児の育ちにつながった ・KKP連携のもと研修を行い各校種の教育について学べた。しかし、幼稚園の保育公開がまだできていない。今後予定し地域の連携施設に公開し連携充実を図る。 ・えほん室の親子利用を楽しみにしている家庭も多い。しかし、利用者に偏りもみられる。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携における互いの教育への理解と交流活動の充実　保育公開と「学びに向かう力」「幼児期に育みたい資質・能力」の検討 ・前半に続き、クラスでのえほん室活用絵本整備におけるボランティアとの協力と情報交換
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保育公開と他校種との意見交換と連携　週案とアプローチカリキュラムの検討
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小中との交流や連携は該当学年が中心となる傾向がある、他学年への発信も工夫が必要。 ・中学校体育大会で体操する幼児の姿は初めての場にも対応できる心の育ちが見えた。 ・教師の心地よい読み聞かせの時間が幼児の絵本が大好きという気持ちにつながっている。 ・絵本ボランティア活動でえほん室で読み聞かせ活動や絵本整備を行っている。その中で幼児と触れ合い互いに名前がわかり、呼びあう関係ができています。幼児の人とかかわる力の育ちともに、ボランティア活動の喜びを感じる。

最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>

	重点目標の達成状況，次年度の課題
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（３）自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む **心と体・生活習慣**

具体的な取組	
<p>○意欲的に体を動かして遊ぶことができ、多様な体の動きが経験できる環境構成の工夫と教師の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じ安心して体を動かして遊べる安全に配慮した環境構成のあり方の立案と計画。 ・共に遊ぶモデルとなる教師の援助 <p>○「自分でできる」喜びを感じられる発達に応じた生活習慣の確立と家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣が必要と感じる援助と習慣が身につく認め援助・生活習慣確立に向けた園だよりへの掲載 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・思い切り体を動かした心地よさを感じる幼児の姿のとらえ・事例検討 ・週案の計画と見直しによる発達に応じた幼児の体や生活習慣の育ちの見とり ・アンケート（項目）⑦子どもは遊びや生活の中で体を十分に動かし、体力がついてきている。⑧早寝や早起き・食事やおやつの時間など生活リズムが整ってきている。⑨毎朝、朝ごはんを食べている。⑩子どもは衣類の着脱や持ち物の始末、手洗いやうがいなどの生活習慣が身についてきている。⑪幼稚園では生活習慣が身につくように子どもにかかわっている。⑫家庭では生活習慣が身につくようにかかわっている。⑬園は生活習慣について、園だよりや毎日の連絡などで家庭に知らせ、一緒に考えて取り組もうとしている。 	

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に様々な遊具や用具を用いた環境構成を行い、遊びの中での再構成を繰り返し、幼児の発達に応じた運動と量を確保。 ・生活習慣が身につくよう個に応じたわかりやすい援助（絵カードや生活の流れがわかる掲示） ・今幼稚園が取り組んでいる生活習慣の取組を園だよりで発信した。 <p>アンケート どの項目もAB評価併せて80～90%前後であるが、⑩⑪ではB評価の割合が30%前後あり、C評価も⑩では12%⑪4%と他項目より若干多い。</p>	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が共に遊ぶ中でより楽しく、より意欲的に活動できる環境の再構成を行い、幼児の運動量を一定確保できた。体がしっかり動くことによる心の育ちも丁寧にとる必要がある。 ・生活習慣の確立は家庭の悩みでもあり、また、園での課題でもある。家庭と連携を取り合い、時には家庭を支援しながら、取り組んでいく。
分析を踏まえた取組の改善	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き十分な運動量の確保と、丁寧な幼児理解 生活習慣確立への丁寧な援助と家庭との連携 	

	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の計画的な立案による活動の工夫と展開 ・満足感や達成感のもたらす心の動きなど幼児理解（研究保育や事例検討） ・生活習慣確立への家庭との連携やわかりやすい園だよりでの啓発
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年運動会には幼児の競技や演技に心が動くが、今年度は、さらに体力や集中力がついてきたことを感じた。今までの継続した取り組みが積み重ねられ子どもの姿に表れてきている。 ・なかよしタイム（預かり保育）でのミニ運動会開催は園行事と連動した活動となった。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div>
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <div>重点目標の達成状況，次年度の課題</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

（４）自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の子どもと信頼関係を築き，自己肯定感を育てる援助を行う。 ○安心して過ごせるクラスづくりと友達関係の構築 ○高齢者施設の定期的な訪問 ○学校運営協議会やPTAとの連携・協力による地域行事への参加
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保育を振り返り，クラス運営を見直す ・一人一人の心に寄り添う幼児理解と事例検討 ・高齢者施設での交流や地域行事への参加の様子のみとり ・アンケート（項目）⑬子どもは喜んで登園し，先生や友達とかかわることを楽しんでいる。⑭園は一人一人の良いところを認め励ましながらかかわっている。⑮子どもは園で自分の思いを素直に表したり，様々な感情（喜び・悲しみ・怒り・悔しさ等）を体験したりしている。⑯園は子どもの様々な気持ちを受け止め心の育ちを援助している。⑰園の教職員は話しやすい雰囲気をもっている。⑱高齢者施設との交流は子どもの心の育ちにつながっている。⑲園と地域との連携や地域行事への参加により子ども家庭は以前に比べ地域や地域の人に関心や親しみをもつようになってきた。

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の幼児と教師との信頼関係の構築を保育の振り返りや事例から読み取り，個人への援助，クラス運営への手立てなど，自己肯定感がもてる・高まる保育の改善や充実に努めた。 ・高齢者に向ける笑顔や，地域行事への参加によるの人とのふれあいを喜ぶ姿があった。 アンケート ⑬A77%⑭A84%⑮素直な気持ちを表すA49%，様々な感情を体験A75% ⑯A87%⑰A91%⑱A78%⑲A62%B33%	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・先生が好き，友達が好きという信頼関係の土台はできつつあり，自己肯定感も育ってきている。安心して遊ぶ中で，ルールを守る，相手を思いやる行動も見られる。一方，アンケートから保護者は，園の取組は評価するが，幼児は様々な気持ちを感じながらもまだ素直には表せていない部分があると，とらえていることがうかがえる。思いを言葉だけでなく表情や態度などで表し伝えようとしている姿がある。丁寧に援助を行い，教師や友達との関係をさらに広げていきたい。 ・高齢者施設との交流では，訪問を楽しみにしたり，ゆっくり握手するなど高齢者への配慮ある行動が見られたりした。また，様々な人と触れ合うことで，自分の住んでいる地域への親しみが芽生えてきている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人との信頼関係を引き続き積み上げ，様々な方法で表される幼児の思いを丁寧にみとる保育の中で，高齢者施設のことや，地域行事や出来事の話にふれる。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な保育の振り返りと記録 事例検討
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・園の様子から，幼児の友達が好き，先生が好きな気持ちや，安心して園生活を送っていることがわかる。好きな先生がしていること，興味を持っていることが幼児にしっかりと伝わっている。 ・みつばの森が地域と園をつなぐことで，地域の声が園に届き，園の意向が地域に伝わっている。 ・地域行事に参加し自分が住んでいる地域への親しみが培われること大切。地域の子どもは地域が育てることの一翼を園も学校運営協議会も担っている。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）
	分析を踏まえた取組の改善
	重点目標の達成状況，次年度の課題
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

